



## 探究活動を終えた3年生に インタビュー

7月の最終報告会を終え、残るは論文制作だけとなった3年生。今回はその3年生にこれまでの探究活動を振り返ってもらいました。

インタビューに応じてくれたのは、校内外で活躍を見せてくれた、高齢者見守りAIの開発を研究した60C60班です。



▲60C60 班のメンバー

## 3年間で振り返って

### Q: 3年間の探究活動を振り返ってみて、今どのように感じていますか？

貴重な経験ができたと思っている。特に発表会で他の高校生の研究を目にすることができたのはすごくプラスだった。全国のレベルの高さを知ることができた。自分たちから進んで出ること、応募してみる姿勢がすごく大事。

レベルの高い発表を見ると、「自分たちもちゃんとやらなきゃ」という意識が芽生えてきて、より活動に力が入ると思う。

### Q: はじめ、ここまで研究が進むと想像できた？

研究当初は会話用AIを作ろうとしていたので、そこから考えると確かに想像はできなかった。たまたま Teachable Machine を見つけ、難易度的にも画像処理の方がやりやすそうだったので研究を進めることができた。正直な話、こんな大ごとになるとは思わなかった。

科学部が Raspberry Pi (小型PC) を所有していることを友人づてに知ったことも大きかった。いろんな人を巻き込んでいったことが研究を進められた要因の一つだったと思う。

## 大変だったこと

### Q: 「これは大変だったな」と思ったのはどのタイミング？

Google Colaboratory から Raspberry Pi 内にプログラムを移行する作業が一番大変だった。それまである程度プログラミングがしやすい環境だったものを作り直す必要があった。

発表会で大変だったのは2年生のときに初めて参加した九州大学での発表会。未完成のプログラムではあったが、かなり多くのことを指摘されたのは記憶に残っている。

## 研究のこれから

### Q: 改めて自分たちの研究についてどう感じている？

あと1年活動できるのなら、実は一から作り直したい。知識がない状態で始めたので、今見ると無駄が多いと感じている。

研究を引き継ぐとしても、もっと新しいことをしてほしい。自分たちの研究は高校の範囲だとこれが限界だと感じているが、それもずっとやってきたからこそ分かったこと。こういう方法があるということを見せられたのはよかったと思っている。

### Q: 後輩に期待することは？

SSH校にいるのなら、ぜひレベルの高い貴重な経験をしてほしい。発表会に出てほしいし、たとえ出られなくても見に行してほしい。また学校外の自治体や団体の協力を得たりして、自分たちの研究の幅を広げてみてほしい。

▼最後に参加した SSH 生徒研究発表会 (神戸)

